

胃がん 予防・早期 診断から治療まで



消化器科 部長
小椋 啓司
[専門領域]
消化器疾患
[主な資格]
日本内科学会 認定医
日本消化器病学会 専門医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本肝臓学会 専門医
日本消化管学会 胃腸科指導医
日本がん治療認定医
日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医

胃がんは、日本人に多いがんです。最近の統計では、日本で診断されたがんの中で、胃がんは男性で1位、女性で3位(1位 乳がん、2位 大腸がん)となっています。

しかし、胃がんは早期に発見することにより、多くの患者さんを治すことが可能です。

i 予防について



胃がんを予防するためには塩分の取り過ぎや喫煙を避けて、野菜・果物を含むバランスの良い食事を取ることが重要と考えられています。しかし近年、ヘリコバクターピロリ菌の持続的な感染による慢性胃炎が胃がん発生の最大の原因であることが明らかになりました。さらには、内服薬でピロリ菌を除菌することにより、胃がんの発生率が2分の1から3分の1に下がる可能性も示されています。ただし、残念ながらすべての胃がんを予防できるわけではありません。除菌治療後も定期的な胃の検診を受けることが望まれます。ピロリ菌除菌と除菌後の内視鏡による定期検査が胃がんの予防、そして早期発見につながると考えております。

ピロリ菌の除菌後について



ピロリ菌を除菌し、定期検診をうけていても胃がんと診断された場合でも、定期検査により早期胃がんの段階で発見することができれば、外科手術などの治療によって、ほとんどの患者さんのがんを治すことが可能です。さらに、ごく早期に発見できた場合、内視鏡治療(内視鏡的切開隔離術)で治せる胃がんもあります。

近年では、治療技術の進歩や治療器具の開発により、従来は胃切除が必要だったがんの中にも内視鏡で取れるものが増えています。がんの深さ、がん細胞の悪性度などの条件が揃うことが必要ですが、お腹を切らずに胃がんを治すことができるようになってきました。内視鏡治療では、より短い治療期間、胃の機能温存、社会復帰が容易などの多くの利点があります。

当院消化器科ではピロリ菌診断・除菌治療から、胃がんの早期診断、内視鏡治療まで行っています。外科手術が必要な場合も円滑に治療を進めるように外科と連携をとっています。胃炎やピロリ菌感染の診断・治療を希望される方、胃がんの検査を受けたい方、胃がんと診断され治療を希望される方、受診をお待ちしています。